

中国自動車産業の競争力に関する調査研究

(報告書の概要)

中国は2008年に米国を抜いて日本に次ぐ世界第2位の自動車生産大国になったが、BRICsと称される新興国の中でも成長規模は大きく、中国市場の存在は世界・日本にとってますます重要になっている。

中国には完成車メーカーだけでも130社以上が存在し、外国メーカーと合弁事業を展開している旧・国営系メーカーや新興・独立系メーカーなど経営形態の異なる企業が共存している。第一汽車、東風汽車、上海汽車の3大集団は複数の外国メーカーと提携関係を構築しているが、最近では奇瑞汽車、吉利汽車、比亞迪汽車といった民族系メーカーの躍進も注目される。こうしたメーカーは、国内市場での増産に加え、海外市場へも進出し始めており、海外への輸出を強みとする日本の自動車産業・企業にとっては無視できない対象となりつつある。

本調査研究では、中国自動車産業・企業の現状と自動車関連政策の動向を整理したうえで、中国現地の業界関係者へのヒアリングを通じてその方向性を確認した。また、旧・国営系のみならず、注目される民族系メーカーの経営戦略・目標などの動向を踏まえ、その実力がいかなるものかをビジネス環境の内外要因から検討して現地調査を通じて再確認するとともに、現地の自動車専門家にも評価を仰いだ。さらに、今後、中国の輸出競争力が高まるかについて、外資・民族系メーカーの戦略、実態から方向性を検討し、中長期的視点に立つ克服すべき課題を探った。以上を通じ、完成車・部品産業を含めた日本企業の中国市場参入の可能性と、ロシアやアフリカなどの第3国・地域としての海外市場での関係性などを考察し、経営戦略策定に資する研究を実施した。

(報告書の主要構成)

- (1) 中国自動車産業・メーカーの現状
- (2) 中国自動車政策の最新動向
- (3) 中国自動車産業の競争力
- (4) 中国自動車産業の課題と今後の展望
- (5) その他の自動車関連政策、自動車産業の概要